

令和3年度 総合情報基盤センター研究開発申請書

令和2年10月23日

総合情報基盤センター
 所長 田中 康一郎 殿

私は、令和3年度総合情報基盤センター研究開発における研究開発者として、下記のとおり申請いたします。

記

研究開発代表者		
氏名	所属	職名
香川 治美	建築都市工学部 住居・インテリア学科	准教授
内線番号/携帯番号	電子メールアドレス	
5641/090-4518-3678	kagawa@ip.kyusan-u.ac.jp	

研究開発分担者または研究開発協力者				
No.	氏名	所属	職名または学籍番号	研究開発者区分 (○をつけて下さい。)
1				分担者・協力者
2				分担者・協力者
3				分担者・協力者
4				分担者・協力者
5				分担者・協力者

研究開発期間 (実際の研究開発期間 をご記入ください。)	令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日			
研究開発課題名	ICTを利用して 「授業科目・住居環境学入門」の 応用力向上をめざす教材コンテンツ開発		研究開発テーマ (○をつけて下さい。)	
			①・②・③	
使用計算機名 (○をつけて下さい。)	Windowsサーバ・Linuxサーバ・Windowsパソコン ・Linuxパソコン・Macintoshパソコン その他()			
研究開発経費	申請予算総額	申請予算総額の内訳		
	千円	消耗品費	一般旅費	諸会費
		千円	千円	千円
	318	120	0	0
	購読費	通信費	諸手数料	
	千円	千円	千円	
	0	0	198	

研究開発課題について

1. 研究開発の背景（動機）と目標

(1) 研究開発の背景（動機）

申請者は、平成29年度以降、本研究開発費の助成を2度受け、ICTを利用したWEBサイト教材開発 (<https://housing.kyusan-u.ac.jp/>) を継続しており、その研究開発では、開発教材の利活用と改善を繰り返し、その教材の質をスパイラルアップさせていくことが重要である。したがって今年度も引き続き開発教材に新たな教材コンテンツを搭載し、それを活用した授業を実装、展開して、研究開発に取り組みたい。

(2) 研究開発の目的（解決すべき課題）

これまで申請者が取り組んできた研究開発は、ICTを利用した授業用または復習用の教材コンテンツであった。しかし授業用や復習用としてだけではなく、学生が学修内容を定着させ、応用して考察できるような用途を教材に持たせることも、解決すべき課題のひとつである。そのため本研究開発の目的は、応用力を身につけるための教材コンテンツを開発することである。

(3) 研究開発の目標

前述の目的を踏まえ、本研究開発の目標は、申請者がこれまで研究開発を継続してきたWEBサイト教材に「授業科目・住居環境入門」の受講生が授業での学修内容を応用して考察するための教材コンテンツを搭載し、試行検証することである。

(4) 研究開発の方法

本研究開発の方法は下記4点である。

- ①申請者が担当する「授業科目・住居環境入門」を対象として、学修内容への理解を定着し応用して考察できるような教材コンテンツを15点作成する。
- ②①の教材コンテンツをデジタル化し、申請者が研究開発を継続しているWEBサイト教材 (<https://housing.kyusan-u.ac.jp/>) に搭載し、新機能も追加する。
- ③「授業科目・住居環境入門」の13回の授業受講後に、受講生に②の教材コンテンツを用いた演習を課し、同時に、理解度に関するアンケート調査を実施する。
- ④③の受講生の演習に対する解答と、理解度に関するアンケート調査結果を分析して、本研究開発による教材コンテンツの有用性を評価する。

2. 研究開発の成果、有用性

(1) 研究開発の成果

申請者が、ICTを利用して研究開発を継続しているWEBサイト教材が、授業用や復習用だけでなく、応用教材としても利用可能かについて明らかにする。

(2) 研究開発成果の本学における有用性

教材コンテンツの内容を福岡市の重要課題のひとつである節水に関するものとし、「住居環境」という専門分野の理解だけでなく、福岡市の課題にも貢献できるような学びを、学生が、本学の総合情報基盤センターが保守管理するソースを有効に活用し、かつICTを利用して学べる点で有用である。

3. 研究開発の新規性または必要性

研究開発の新規性は、授業用または復習用の教材コンテンツではなく、学生が応用力を身につけるための教材コンテンツの開発にある。

また昨今の度重なる自然災害やCOVID-19の影響により、対面だけでなく遠隔での学びを実現できるICTを利活用した学びの手段や方法に対する必要性は高まる一方であり、本研究開発は、ICTを利活用した多様な学びの手段および方法の一つとなる。

4. 研究開発の計画

(1) 研究開発体制（役割分担等）

申請者は研究開発代表者である。教材コンテンツ入力に対する研究協力者は、既に「授業科目・住居環境入門」を履修済みの研究室ゼミ生（住居・インテリア学科3年生あるいは4年生の学生）である。またWEBサイト教材基盤のNet Commons(国立情報学研究所(NII)開発のオープンソース<https://www.netcommons.org/>)の保守点検と新機能搭載作業は、関連業者に委託する。

(2) 研究開発スケジュール

いつまでに	実施内容
令和3年7月	教材コンテンツ作成
令和3年8月	教材コンテンツのWEBサイト教材への入力、関連研究会出席
令和3年9月	新機能搭載作業 新教材コンテンツを搭載したWEBサイト教材を用いた授業開始
令和3年12月	理解度の応用力に関するアンケート調査の実施
令和4年3月	調査結果の分析、WEBサイト教材基盤保守管理（通年）

5. 研究開発の成果物に関するICTの活用

(1) ICTの具体的な活用方法・活用手順

本研究開発が目標とする教材コンテンツは、申請者がICTを利活用した研究開発を継続するWEBサイト教材（<https://housing.kyusan-u.ac.jp/>）に搭載する。それを活用する学生も、インターネットを通してWEBサイト教材を利用する。全てICTを活用するものである。

(2) 応募研究開発テーマとの関連性

申請者は、2016年以降、本学の総合情報基盤センターが保守管理するソースを活用して、ICTを利活用した学びの手段あるいは方法に関する研究開発を継続している。

本応募のテーマは、申請者が継続している一連の研究開発の一部であり、今回は特に、申請者が担当する「授業科目・住居環境学入門」の教材コンテンツを対象として、ICTを利活用したの手段あるいは方法に関する研究開発に取り組む。